

理事長の挨拶

## 令和の日本神経化学会スタートに際して

小泉 修一

山梨大学医学部教授

この度、伝統ある日本神経化学会の理事長を拝命いたしました山梨大学医学部薬理学の小泉修一です。すでに就任して半年以上経りましたが、改めて就任にあたっての覚悟と今後の方針について、これまでの活動を顧みながら述べたいと思います。

日本神経化学会は、「神経化学」を標榜する世界で最も古い学会として今日まで世界の神経化学をリードしてきました。基本理念である「化学物質・分子により脳の仕組み及び疾患のメカニズムを解き明かす」、またこれを実現すべく「徹底した深い議論」及び「若手育成」を実践して参りました。私はこれらに強く賛同しておりますので、これまでの大きな流れは今後も変えません。しかし、さらなる発展を目指して、変えるべき点は勇気をもって改革していこうと考えております。今期は「伝統の継承と改革」を旗印に、日本神経化学会を先導していく覚悟であります。折しも、平成が終わり令和が始まった時期と重なりました。昭和、平成を経て日本神経化学会が令和に引き継ぐべきこと、改革すべきことを、新しい執行部、理事の先生方、委員会の先生方と、しっかり議論し、実行に移したいと思っております。今期の執行部・理事会は、フレッシュな顔ぶれと、これまで日本神経化学会を支えてくださった重鎮との絶妙なバランスから構成されています。フレッシュな力と経験とを融合させて、伝統ある日本神経化学会の新しい時代を築いていきたいと思っております。

既に理事会、委員会が活発に活動をはじめています。今期から「若手育成委員会」を新設したこと、またいくつかの委員会では副委員長制度を採

り入れたこと等により、学会活動がこれまで以上にダイナミックになってまいりました。委員会での提案、また執行部・理事会からの提案が実際に実行されるためには、円滑なコミュニケーションと交通整理が必要になります。今回、ブランディング担当理事（尾藤副理事長）を置き、提案が実行されやすい体制が構築されました。どうぞご期待ください。またこれらの学会活動は、和田前理事長が考案された「理事長だより」により、学会の会員の皆様に適宜配信し、これまで以上に学会の透明化に努めたいと思います。すでに4月より何度かの理事長だよりを配信しました。学会の重要な案件の記載に終始するつもりではありますが、個人的な感想や想いを呟いている箇所もございます。そのようなところは、適当に読み飛ばしていただければと思いますが、重要と思った場合は連続して配信することもあるかと思っております。学会の熱い想いであるので、どうかご理解いただきますようよろしくお願いいたします。また、各委員会の新しい取り組みや重要な案件は、「委員長だより、委員会だより」として、新しく配信することになっております。その他にも、特に情報の発信・受信の面で、様々な仕掛けを考えております。こちら、どうぞご注目ください。

昨今の研究を巡る情勢は厳しく、様々なネガティブな雰囲気が蔓延しているように思います。もう日本の研究は終わってしまうかのような悲観的なコメントさえあちらこちらから聞かれます。短期間での研究成果、さらには研究の出口や社会実装を要求されることが余りに多く、スケールの小さな研究に終始しがちです。しかし、今こそ日

本神経化学会が輝ける時代なのではないかと思えます。趣味の延長だったかもしれない研究の為の研究が、今や治療や診断に応用できる時代になってきました。日本神経化学会には、バリバリの基礎研究者が臨床医学研究者と容易にタッグを組める土壌があります。奇妙な研究をしている若手を引っ張り上げたり、侃々諤々の議論をしながら大きな研究に育てていく習慣があります。このような素晴らしい伝統を継承することができれば、令和の日本神経化学会にはむしろこれまで以上に大

きく前進できるのではないかと考えております。

最後になりますが、私の使命は会員の皆様と学会との win-win の関係を築いていくことであると考えております。色々とご協力をお願いすることもあります。しかしそれらはすべて皆様に大きく還元するためのものです。全力で努めてまいります。会員の皆様からの、叱咤激励、ご指導、さらに皆様方の積極的なご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。